

各論Ⅱ SCの基本業務

(Ⅰ) 予防・未然防止／早期発見

① 児童生徒、学級、学校のアセスメント

ア 多角的な視点

個別面談、観察（授業中、休憩時間、給食や清掃活動、学校行事等）、Q U等のアンケート類、専門機関の診断や検査結果等から情報を収集し、個々の児童生徒、児童生徒間の関係、集団の状況、学校の状況等をbio-psycho-social（生物・心理・社会）の視点から多角的にアセスメントし、学校に対して適切に助言・援助を行います。

イ 留意点

SCは、アセスメントによって類型化やレッテル貼り、原因・犯人探しにならないように留意し、また自身のアセスメント結果に関連した情報のみを収集していないか確認することも必要です。心理アセスメントに加え、学校関係者や関係機関の様々な専門家による支援チームとしてのアセスメントも重視するとともに、アセスメントは経過を観察しながら必要に応じて修正していくことが重要です。

② 児童生徒、教職員とのラポール※形成

SCの紹介や通信発行のほか、教室巡回や行事への参加、心理教育の実施等で、児童生徒にSCの顔や名前、人となりを知ってもらう機会を設け、SCに相談しやすい環境を作る工夫が必要です。

また、授業者や子どもに配慮した授業参観や校内巡回を行い、実施後には教職員と主体的にコミュニケーションを取って情報共有をするなど、教職員との信頼関係を築き、SCが積極的に活用されるようにしましょう。

※ ラポール…互いに打ち解けて話ができる状態

③ 校内での連携（情報共有）

勤務時には、管理職、担任、SCコーディネーター、養護教諭、SSW等との連携（報告、連絡、相談）を必ず行います。その中で学校のニーズを把握し、「チーム学校」の一員としてどのように参画し協働できるのかを、学校とともに確認しながら活動することが望ましいでしょう。

特に、福祉の専門職であるSSWとは、事例に応じてそれぞれの視点を持ち寄って複合的なアセスメントを行い役割を確認するなど、効果的な支援を行う上で、情報交換や協議のできる関係性を築いておくことが必要です。

また、児童生徒のカウンセリング等を行った場合にも、本人の了解を得た上で支援に必要な情報を教職員等と共有し、校内での支援方針を協議するなど、連携して支援を行うことが大切です。

なお、児童生徒が「秘密を守ってほしい」とSCに強調される場合は生命に関わるなどでない限り、本人らの意志も大切にしましょう。



★トピックス★ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの視点と連携

学校で勤務していると、児童生徒や教員から「SCとSSWの違いって?」、「どのように役割分担したらいいの?」と尋ねられることがあるかもしれません。

スクールソーシャルワーカー(SSW)は、相談者の家庭・生活環境面の安定や改善のための支援を中心に行います。例えば、児童生徒の家庭への支援が必要な場合、SSWは保護者と面接を行い、家庭の状況に応じて、利用できそうな市町村の制度を探すなどの役割を担います。つまり、相談者の現実的な側面から、社会福祉等の専門的視点に基づいて支援を行うのが、SSWの役割となります。

SCがSSWと同じケースに関わる場合は、先生方は勿論、SSWとも情報共有や校内支援会で対応を確認することがとても大切になってきます。それぞれの専門性を活かして、多方面から相談者を支援していけるように、学校全体で連携していきます。

【担任・SC・SSWが連携した小学5年生Aさんの事例】

夏休み明けの2学期から、欠席が続いているAさん。担任の先生が家庭訪問を行った際、Aさんは「集団の中にいるのがしんどい」と打ち明けました。Aさんは、友人とのすれ違いから、人との付き合い方や距離感について悩み、集団に入ることへの抵抗やしんどい思いが強くなったようです。

Aさんの「今は教室に入るのがしんどい。別室登校をしてみたい」という思いを聞いた担任は、学校のSCコーディネーターの先生に相談。

その結果、Aさんの無理のない範囲で、

① 担任の定期的な家庭訪問や電話連絡

→ Aさんと保護者との繋がりを保つ。

② SCとAさんとの面接

→ Aさんのしんどさや困り感に寄り添い、心理的な負担の軽減や改善方法の検討。

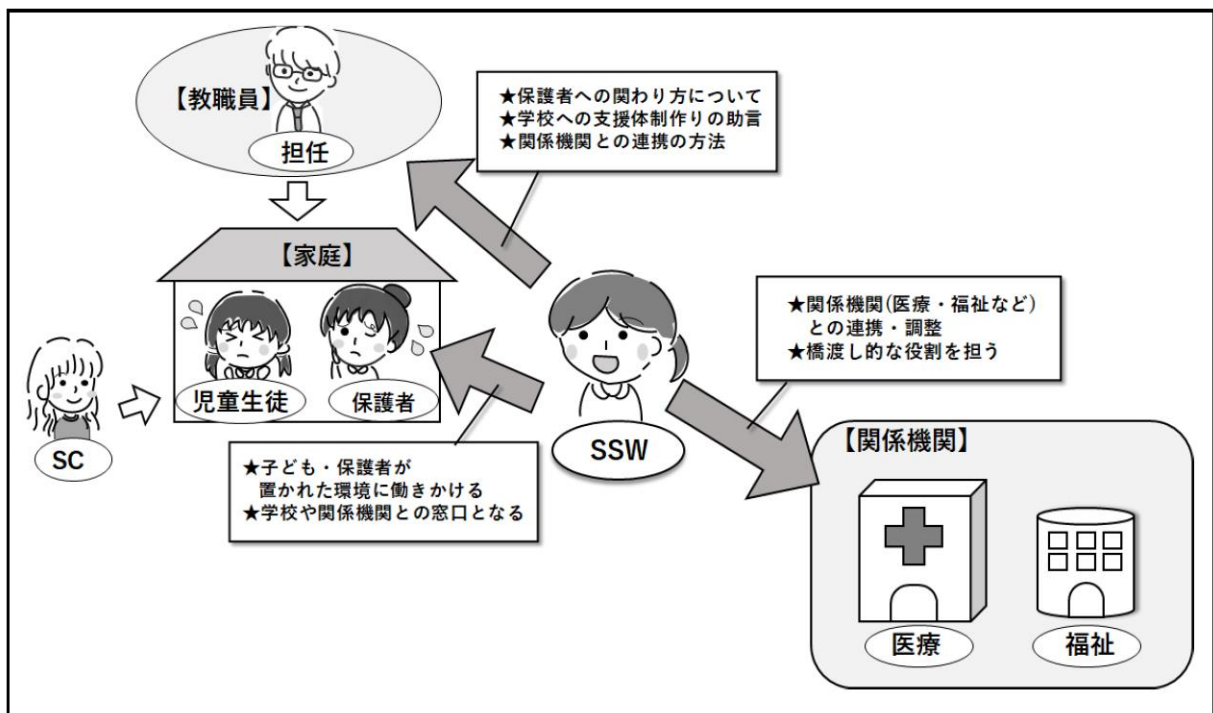
③ SSWとAさん・保護者を繋げていく

→ 教育支援センターをAさんと保護者に紹介。保護者の理解を得て、SSWとAさんと一緒に教育支援センターへ見学に行く等、Aさんが過ごしやすいような環境面の調整や橋渡しの役割を行う。

と学校で役割分担をし、Aさんへの支援を行うことにしました。Aさんの様子を見つつ、定期的に校内支援会を開いて、全体で情報共有や方向性の調整などを行っています。

表：SCとSSWの視点と役割

	スクールカウンセラー(SC)	スクールソーシャルワーカー(SSW)
目的	臨床心理的な視点から心のケア	社会福祉的な視点から環境の改善
手法	カウンセリング (心理面へのはたらきかけ)	ソーシャルワーク (環境面へのはたらきかけ)
役割例	<p>① 児童生徒等へのカウンセリングをとおり、気持ちの整理や現状改善を図る。</p> <p>② アセスメントに基づき、学校への支援方法などについて助言する。</p> <p>③ 教員へのコンサルテーションなど、児童生徒・保護者への間接的な支援。</p>	<p>① 児童生徒や保護者に寄り添いながら、面談や家庭訪問などにより困り感を把握し、支援策を検討する。</p> <p>② 家庭状況に応じた関係機関との連携や、保護者と学校や関係機関との橋渡し・窓口となるような役割を担う。</p> <p>③ 学校への支援体制づくりの助言など、児童生徒・保護者への間接的な支援。</p>



(図) SSWの役割・活動の一例

④ 関係機関との連携

学校だけでは対応できない事案は、学校外の関係機関と連携を行います。外部機関との連携は、学校組織として行うため、校長の判断が必要です。また、医療機関等の情報提供を行う際は、対象者が選択できるように複数の機関を提示します。S Cが情報提供書等を作成する場合も必ず校長の許可を得る必要があります。

学校によっては校長名連記で出す場合もあります。書式についてはS Cコーディネーターや管理職ともご相談ください。

<情報提供書の例>

年 月 日												
情報提供書												
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>医療法人〇〇会 〇〇病院 心療内科 医師 〇〇〇〇先生 御侍史</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: right;"> <p>〇〇市立〇〇中学校 スクールカウンセラー 〇〇〇〇 〒〇〇〇-〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇番地 T E L : 000-000-0000</p> </div> </div>												
<p>〇〇先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素よりお世話になっております。</p> <p>さて、この度 〇〇市立〇〇中学校 2年生 〇〇〇〇さん をご紹介させていただきます。</p> <p>ご多用のところ大変恐縮に存じますが、ご高診のほどよろしくお願いいたします。</p>												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; padding: 5px;">氏名</td> <td style="padding: 5px;">生年月日</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">住所</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">主訴</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">ご紹介目的</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">経過</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">学校で行っている対応や支援</td> </tr> </table>	氏名	生年月日	住所		主訴		ご紹介目的		経過		学校で行っている対応や支援	
氏名	生年月日											
住所												
主訴												
ご紹介目的												
経過												
学校で行っている対応や支援												

★トピックス★ スクールカウンセラーと心の教育センターとの連携と協働



心の教育センターは、高知県教育委員会の相談機関です。就学前から高校卒業頃までの年齢の児童生徒・その保護者を対象に、心の教育センター在籍SCが面接を行っています。国公立・私立、学籍の有無なども関係なく、対象年齢の児童生徒や保護者の方が利用することができます。

「心の教育センターってどういった施設なの?」、「何だか敷居が高そう」などといった、イメージや印象もあるかもしれませんが、SCが学校で児童生徒や保護者の方々に面接を行っているのと同じように、“心の教育センター”でも、在籍SCが面接を行っています。

連携・協働の具体例

児童生徒や保護者の相談先として、SCから心の教育センターを提案することができます。例えば、学校でSCが親子分離面接を検討している場合や、学校内での面接に抵抗が強い児童生徒の相談先を探している場合などが挙げられます。

また、SC自身が面接や支援会のことなど困った時の相談先として心の教育センターを利用することもひとつの選択肢です。

【SCが次の相談場所に繋ぐことができた高校1年生Bさんの事例】

Bさんは様々なことが重なり、担任の先生と何度も話し合った結果、高校退学を選択することになりました。また、Bさんは、SCの来校日にはいつも面接予約をして、SCに悩みや迷いを相談しています。

SCは、「Bさんの退学後は、学校内で自分に対応することは難しくなる。」と判断をします。そして、SCは面接の中でBさんの意思を丁寧に確認してから、Bさんの退学後の相談先として、心の教育センターを提案しました。

SCの対応後、Bさんの保護者は心の教育センターに問い合わせをし、現在Bさんは心の教育センターで相談することができているようです。

【SCの中立性を保つためにSCが判断を行った中学2年生Cさん・Dさんの事例】

SCはCさんの面接を継続的に行っています。Cさんは友人関係のトラブルから、不安やイライラが募るようになりました。SCとの面接の中で、その感情をSCに表出することもあり、不安定さが窺えます。SCは丁寧かつ慎重に、Cさんの面接を行っています。

ある勤務日、SCはCさんの担任の先生から『同じクラスのDさんの面接もお願いしたい。』と依頼されました。Dさんは、Cさんとトラブルになってしまった生徒です。担任の先生によると『DさんもCさんとの関係の中で気持ちが不安定になっているようなので、是非SCと繋がりたいです。』とのことでした。

SCは「Cさんとの面接をずっと継続してきた自分は、Dさんの考えや思いを中立的に対応していくのは、難しいだろう。」と判断をします。

担任の先生と相談を重ねた結果、SCはCさんの面接を継続し、Dさんの相談先として心の教育センターを検討してみることにしました。



⑤ 教職員への研修

日常的に児童生徒と接する教職員が、カウンセリングの基礎知識やスキルを習得し、児童生徒が遭遇する可能性のある種々の問題への理解を深め、対処方法についてSCと共通理解を図ることなど、教職員の教育相談の力量向上を援助することが目的です。

実施形態として、

- 1) 情報伝達型 2) 参加型 3) 事例検討型

があり、内容に応じてこれらの方法を組み合わせて行います。

★トピックス★ スクールカウンセラーが実施する校内研修

(1) 依頼の多い研修内容

よくあるテーマとして、「不登校」や「発達障害」、「ストレス」や「アンガーマネジメント」などが挙げられます。

(2) 校内研修の資料作り

校内研修を依頼された場合、SCはSCコーディネーターなどの関係教員と内容の打ち合わせを行います。どんな内容が適切か、誰を対象に行うのかということを踏まえた上で資料作りにとりかかります。他のSCの資料を参考にさせてもらうこともあります。

また、心理教育の一環として、SC側から研修を提案することもあります。その場合でも内容の打ち合わせを行い、その学校に即したテーマを選ぶ必要があると考えられます。さらに、発表形式にも工夫が必要で、特に長時間に渡る場合、講義形式だけでなくエクササイズやグループワークを取り入れることで、より実りのある研修会になるなど、会場設定も含め十分な打ち合わせが大切です。

(3) 資料の印刷・配付

研修資料が完成したら起案を行い、事前に管理職や担当の教職員に内容の確認を求めます。修正箇所を直した後に印刷作業に入ります。研修の中で事例を扱う場合には匿名であっても終了後SCが確実に回収し、責任を持って処分をします。

依頼を受けた研修の実施についてお困りの際は、人権教育・児童生徒課または心の教育センターにご相談ください。

心の教育センターにある参考文献や資料の貸出、また、在籍SC・指導主事が一緒に考えさせていただくこともできます。ぜひお声かけください。



⑥ 児童生徒への心理教育

学校の計画に基づき、全ての児童生徒が安心した学校生活を送れる環境づくりの一環として、児童生徒の実態に応じたプログラムの実施や、教職員への助言・援助を行います。

《心理教育の例》

- ・ 「高知家」いじめ予防プログラム
- ・ ストレスマネジメント
- ・ ソーシャルスキルトレーニング
- ・ SOSの出し方に関する教育
- ・ ピア・サポート活動
- ・ アンガーマネジメント など

(2) 対応

① 児童生徒、学級、学校のアセスメント〈再掲P15〉

② 児童生徒のカウンセリング

ア 来室経路

児童生徒からの直接的な申し出のほか、保護者や教職員からの依頼等により、SCのもとへ来室する場合があります。

イ アセスメントのための情報収集

事前に、対象の児童生徒について、出席状況や学習への取組み、保健室の利用や保護者の状況等について、可能な範囲で担任等関係教職員からの情報収集を行います。また、教職員の許可を得て授業を参観したり、休み時間や行事等の場面に出席したりして、児童生徒と関係を築きながら、日常の様子を捉えることも大切になります。

ウ 実施時の留意点

実施にあたっては、対象の児童生徒が安心できるように、部屋や時間を予め設定します。緊急事態等が発生しない限り、基本的には最初の設定(枠組)を変更しないようにします。そうすることで、児童生徒が心理的安全を感じ、SCとの信頼関係を構築しやすくなります。

初回面接では、来談したことを労った上で児童生徒の話を丁寧に聴き、信頼関係の構築に努めるとともに、事前情報と併せて当面の支援目標を立て、児童生徒と共有することが基本となります。そして、守秘義務について説明し、その中で必要に応じて教職員と情報を共有する可能性があることを伝え、本人の了解を得るように努めます。

また、本人がカウンセリングを希望していても、保護者の了解が得られない場合があります。児童生徒へのカウンセリングは、結果的に児童生徒が困難な立場に置かれないように、保護者のカウンセリングに対する思いや家庭の状況等も踏まえ、実施するよう心がけましょう。

エ 継続的な支援

児童生徒の学校や家庭での状況、カウンセリングの様子を基に、随時アセスメントを行い、支援目標の見直しを行いながら支援を継続します。

オ 来室以外のカウンセリング

児童生徒の状況によっては、家庭訪問やICTを活用したカウンセリングの実施も考えられます。児童生徒が選択できるように、多様な支援方法を整えておくことが望ましいです。実施にあたっては、必ず教職員とSCで学校の方針を確認しましょう。

★トピックス★ カウンセリングにおけるスクールカウンセラーの視点

一般的に“カウンセリング”とは、心理職者が相談者の思いや考えに寄り添い、臨床心理学的な視点からアプローチを行っていきます。相談者への助言を行う場合もありますが、何より大切なのは、相談者の自分の気持ちの整理や自分の力で進んでいくためのお手伝いをしていくという視点です。

SCへの相談には、児童生徒、保護者、教職員など、さまざまな相談者が訪れます。その内容としては、友人関係や学業、家族関係についての相談から、命に関わるような緊急性の高い相談まで幅広くあります。SCとして、どのような相談においても、まずは相談者の気持ちや感情に寄り添っていく姿勢となります。SCは、決して指示的にはならないように、相談者の思いや考えをしっかりと聴き、一緒に状況を整理したり、目標を立てたりといった作業を丁寧に行い、相談者の気持ちの安定や困っていることなどの改善に繋がるためのアプローチをしていきます。

一方で、緊急性の高い相談内容などは、SC自身に「早く何とかしなければ」という強い焦りが生じる場合も考えられます。そんな時こそ、SCは置かれた状況や周囲の感情に巻き込まれないように、冷静な視点から物事を全体的に捉えていく力も非常に大切となるのです。

③ 保護者への助言・援助

ア 来室経路

保護者自ら希望する場合と、教職員や関係機関等の勧めで、来室する場合があります。

イ チーム学校の一員として

保護者は児童生徒の重要な支援者の一人です。チームとしての支援が有効に進むように、共に考えていきましょう。その際、学校（教員）と保護者双方の考えや感情を理解し、保護者への対応が児童生徒の支援となるように、両者をつなぐ姿勢で助言・援助を行います。

ウ 来室以外での援助・助言

SCの勤務時間に来室できない事情がある場合は、電話やICTを活用する方法もあります。実施にあたっては、教職員とSCで学校の方針を確認しましょう。

また、教職員へのコンサルテーションによって、間接的に援助することも重要です。

★トピックス★ オンラインカウンセリング

(1) オンラインカウンセリングとは

電話・電子メール・SNS・各種Web会議サービス等を利用することにより、遠方の方や外出困難な方を含め、相談に応じることができるようになります。映像や音声、文字のやりとりを通して関わるため、対面で話をすることに不安や苦手意識のある相談者でも利用しやすい場合があります。

(2) 実施上の留意点

通常の対面式カウンセリングの留意点に加え、オンラインカウンセリングならではの配慮が必要だと考えられます。



① 環境面

相談者の方がどのような状況でその場に臨んでいるかも考慮します。周りに会話の内容や画像が漏れない環境かも配慮しつつ活用することが求められます。また、インターネット通信ができる媒体と、各種サービスを利用できるアカウントを持っている必要があります。

② 通信機器による影響

ビデオ通話の場合でも、スクリーン上にカメラがないため相手と目を合わせて話すことが難しい、非言語的なメッセージが伝わりにくい、音声や映像が遅延したり途切れたりする可能性がある等、対面式にはない影響が見られるかもしれません。

③ 機密性

やりとりが通信媒体を通して行われるため、内容の録画・録音・画像保存が容易に行えると考えられます。事前に面接内容の保存や共有は禁止する旨を伝えた上で、カウンセラー側も面接内容に配慮を要すると考えられます。

④ その他

カウンセリング中に相談者が一方的に通信を遮断した場合（マイクのミュート、映像の停止等）や、自傷他害が起きた場合などを想定し、事前に対応を考えておく必要があります。

④ 教員へのコンサルテーション

ア 対等な関係

教員は教育の専門家です。SCは、教員の考え方やこれまでの経験を尊重し、対等な関係で意見交換を行うことが求められています。

イ ニーズの把握

まずSCは、教員が困っていることや求めていることを、話を聴きながら明確にすることから始めます。

ウ 教員の意見を交えた支援方針の検討・決定

新たな関わり方や工夫、新しい理解、支援チームメンバーの選定や役割など、学校生活の中で児童生徒と多くの時間を過ごしている教員の思いや考えも尊重しながら、SC及び教員双方の意見を踏まえて検討・決定していくことが重要です。

★トピックス★ コンサルテーションとは

(1) コンサルティとコンサルタント

コンサルテーションとは、コンサルティ（ここでは教員）に対しコンサルタント（ここではSC）が課題解決のための支援を行うことです。コンサルティも他領域（ここでは教育）の専門家であり、互いの専門性を尊重することが大切です。そのため、コンサルタントはコンサルティの教育者としての専門性を生かすサポートをするという姿勢が求められます。

(2) コンサルテーションについて

コンサルテーションの内容はコンサルティが受け持つ児童生徒や保護者への対応についてのもが多いと考えられます。コンサルティと児童生徒・保護者との関わりは1回きりではなく日々続いていくものなので、現在の関わりのままでよいか、変えようとしたらどこを変えたらよいかをできる範囲で共に考えていくことが重要です。また、SCが担当するケースと同様にコンサルテーションのケースに関しても経過に関心を持つことが必要です。

⑤ 校内での連携（情報共有）〈再掲P15〉

⑥ 校内支援会への参加

ア SCの役割の確認

学校によって校内支援会の回数や開催方法、構成メンバーは異なります。校内支援会におけるSCの役割等については、年度当初に管理職やSCコーディネーターと確認をしておきましょう。

イ 個別支援の検討

SCは、個別支援が必要な児童生徒に対して、関わりのある教職員を中心に、情報共有を行います。それを踏まえ、教職員やSSWと共に必要な支援について話し合いをします。SCも心理アセスメントをもとに、児童生徒にとって有益な支援についての意見を出します。その上で、他のメンバーとともに支援方針や方法を決定していきます。

支援を検討する予定の児童生徒が分かっている場合は、あらかじめ教室等で児童生徒の様子を観察し、アセスメントのための情報を収集するとよいでしょう。



ウ 集団支援の検討

学級や学年など、集団への支援を検討するために校内支援会が開催されることもあります。この場合も、児童生徒個人だけでなく、事前に学級や学年の様子を観察し、集団の状況についてもアセスメントができるようにしておくとうまくいくでしょう。

エ 校内支援会に参加出来ない場合

勤務の都合で校内支援会に参加できない場合には、事前に支援を検討する児童生徒や集団についての情報やアセスメント内容を、SCコーディネーターや支援メンバーに伝えておく方法があります。次回の勤務時に、校内支援会の内容や支援方針等について申し送りを受けることで、支援メンバーの一員として役割を果たしていくことができます。

★トピックス★ 校内支援会とは？

校内支援会とは、児童生徒の支援に関わる人が集まって「いつ、誰が、どのような支援をできるか」を決める場所です。校内支援会では、はじめに情報共有を行い、それをもとに参加者全員でアセスメントを行い、支援方針や具体的な支援内容を考えていきます。

支援方針や具体的な支援内容は、児童生徒の状況に応じ、修正していくものなので、前回決めてやってみた支援はどうだったか、今後、どのようなことが考えられるかを振り返る必要があります。そのためにも、校内支援会は定期的に関ることが望ましいです。また、必要に応じて保護者や外部機関等を招いて会をもつのもよいかもしれません。

SCは、専門的な知見を生かした見立てを行うとともに、当事者から少し離れているからこそ見える、できている点や強みにも注目しながら助言を行います。

校内支援会を行う際は、時間が長くなり、参加者の負担にならないよう配慮する必要があります。そのため、一回の校内支援会で検討する人数や内容をあらかじめ決めておくことも必要です。また、支援者の日頃の苦労をねぎらい、今できていることを確認するのも目的の一つです。

⑦ スーパーバイズ

高知県では、スーパーバイズ制度を設けており、個別面接型、集団型、学校活動型※のスーパーバイズを、ニーズに合わせて選べるようになっています。

採用3年目までのSCは年間2回以上のスーパーバイズを受けることを義務づけていますが、3年目以降も自身の知識やスキルを高め、専門性の向上を図る機会として、積極的に活用するようにしましょう。

※ 学校活動型スーパーバイズ … スーパーバイザーがSCの勤務している学校と一緒に勤務し、SCの活動に沿って助言・援助を行う

★トピックス★ スクールカウンセラーの勤務例(1日の流れ)

時間	9:00～17:00勤務の場合
9:00	出勤。情報共有を行い、相談室の準備をする
⋮	
10:00	情報共有をもとに授業観察
⋮	
11:00	子どもと面接 
⋮	
12:00	昼休憩
⋮	
13:00	昼休みに子どもたちと関わる
⋮	
14:00	保護者と面接
⋮	
15:00	記録の作成 
⋮	
16:00	校内支援会に参加する
⋮	
17:00	相談室の片付けをし、退勤

SCは出勤後、児童生徒の状況について、変化がなかったか等、関係教員と情報共有を行います。その後、当日の面接予定の確認、相談室の準備もしておきます。

授業が始まってからは、予約状況に応じて面談をしたり、教室に行き、授業参観を行ったりします。また、長休みや昼休みには子どもたちと関わり、授業とは違った子どもたちの様子を観察したり、教員と情報共有をしたりします。加えて、空いた時間に記録を書いたりすることもあります。

勤務終了前は、管理職への報告や関係教員等と情報共有を行い、退勤します。

これはあくまで一例です。SCは、勤務校の状況に応じた活動方法を見つけ、効果的な活動となるよう工夫が必要です。

★トピックス★ 校種等による勤務の留意点

勤務する校種等によって、SCに求められる活動内容は異なります。

例えば、小学校では言語面接よりも休み時間や授業参観等を通じた観察や関わりが活動の中心になってくるでしょう。一方、中学校や高校では生徒への言語面接を中心に支援していくが必要になってくることも多くなるでしょう。

また、小学校と中学校が同じ敷地内にある学校、定時制や通信制など多部制の高校などで勤務するとなると、SCに求められる活動内容や役割は多岐に渡ります。

まず、SCはそれぞれの勤務校がSCに求めている活動内容や役割の把握に努めるとともに、各学校の校風などを理解していくことが大切になります。

そして、SCコーディネーター等との関わりはもちろん、学校の配布物などを通して、学校の様子を知ることにより良い活動にするための大きなヒントとなります。



(3) 緊急対応

事故や事件、自然災害等による児童生徒や教職員の命にかかわる事案や、教職員の不祥事など、学校コミュニティに危機をもたらす出来事が発生したときに、緊急学校支援チームが派遣される場合があります（P 参照）。その際、当該学校のSCは、緊急学校支援チームの一員として、教職員とともに児童生徒のこころのケアに努めます。

当該学校のSCは、一般的に下記のような支援活動を行います。

- ・ 日頃から支援を要する児童生徒をリストアップし、支援の際の留意点等を教職員に伝える。
- ・ こころの健康調査結果をチェックし、ハイリスクな児童生徒をピックアップする。
- ・ 校内観察や教職員からの情報を通し、ハイリスクな児童生徒の状況を把握する。
- ・ ハイリスクな児童生徒へのカウンセリングを実施する。
- ・ 校内観察やカウンセリング結果を緊急学校支援チームに報告し、今後の支援体制について検討・提案する。
- ・ 希望する教職員のカウンセリングを実施する。
- ・ 全校集会や保護者会等で、児童生徒や保護者へこころのケアについて話をする。

当該学校のSCは、緊急学校支援チームの派遣が終了した後も、通常のSC活動と並行して事案の影響をアセスメントし、児童生徒や教職員の支援を続けます。必要に応じてスーパーバイザーの助言も受けることができます。

★トピックス★ 災害発生時のスクールカウンセラーの勤務体制

SCが学校や教育支援センターに勤務している時に災害が発生した場合は、まずはSC自身の安全を確保します。その後は児童生徒の生命を守るための援助を行うなど、学校長や所属長の指示に従い活動します。児童生徒に対する心のケア活動については、県内の被災状況をふまえ、県教育委員会や市町村教育委員会、関係団体等が連携して計画を策定する予定です。その計画をもとにSCも活動を行っていきます。SCの安否確認や情報伝達手段として「高知県防災アプリ」への登録をお願いしています。